

市長の伊賀じまん

—世界に誇れる伊賀—



今月の26・27日に伊勢志摩サミットが開かれます。G7（先進7カ国）の方々が伊勢志摩を訪れるということで、近頃その「おもてなし」が話題になっています。伊賀にも、そのような方々に知って、見て、食べていただきたいものがたくさんあります。

旅の計画を立てる際に「おいしいものを食べることを」楽しみの1つとして挙げる人も多いのではないでしょうか。伊賀の食といえば、やはり一番に思い浮かぶのは伊賀牛です。これは、どこに出しても決して引けを取らない逸品であると感じています。昨年、ミラノ国際博覧会に出展したときも、30kg持って行った伊賀牛はあっという間になくなってしまいました。現地の訪問者からは、「これは本当に肉なのか?」「今まで食べたことがないくらいおいしい」などの声が出るほど大変反響があり、海外でも認められる味であることがわかりました。

そして、伊賀米コシヒカリは、平成27年産米の食味ランキングにおいて「特A」という最高評価を



▲伊賀くみひも製品

◀伊賀焼の皿にのせた伊賀米コシヒカリのおにぎり

受け、今回で5年連続の「特A」認定となりました。また、良い米ができる条件に恵まれていることから、伊賀の酒も、とてもおいしく好評です。

さらに、伝統的工芸品である伊賀焼を外国の方にお見せすると、伊賀焼の特徴である青ガラス質のビードロ釉が目を引いたのか、「これはガラスですか?」という質問が寄せられ、興味を持っていただいたことがあります。また、伊賀くみひもに関しては、伝統的なくみひもだけにとどまらず、最近はネクタイやストールなども作られているので、多くの人に好んで使っていただけたと思います。

ミラノでの評価を受け、伊賀には世界に誇れるものが数多くそろっていることを確信しました。これらを伊賀独自のおもてなしのツールとして、市民の皆さんや、商店・企業などがしっかり活用し、実を結んでいくことが大切です。また、市では伊賀ブランド認定制度も始まりました。今後も市全体で伊賀の魅力発信に努めていきたいものです。(伊賀市長 岡本 栄)



伊賀市の文化財 98

市指定有形文化財(彫刻) 大光寺 桐之木谷地蔵坐像 磨崖仏(寺田)

南宮山から連なる丘陵南側の中腹に所在する大光寺現本堂の西方、やや南に下った谷あいには地蔵坐像磨崖仏があります。

この磨崖仏の存在は、郷土史家の手元にあった写真や現地の調査によって知られていました。近年は所在が分からなくなっていました。昨年、寺院周辺の詳細な調査によって、再び発見され、大変良い状態で保存されていることがわかりました。

磨崖仏は、苔生した花崗岩製の露呈石(高さ2m、幅4m)の側面下方に刻まれています。上端の角が切り落とされた枠(高さ56cm、幅44cm、深さ5cm)の中に、剃髪した姿で右手に錫杖、左手に小さな宝珠を持ち、台座に乗る地蔵菩薩(坐像の高さ30cm、台座の高さ16.5cm)が半肉彫りされています。

仏から放たれる光を表現した光背は、頭光と身光があり、二重輪光式と呼ばれます。頭光には薄肉彫りで蓮の花を文様化した蓮華文が表現されています。像全体の彫りは重厚で、法衣をまとい、胸元には二重の山形が見えます。また、地蔵の乗る台座

は、最下段から順に輪郭のある框座、複弁の反花、敷茄子、単弁の蓮花となっており、非常に丁寧な表現しています。この磨崖仏に年号銘はありませんでしたが、他の石仏の様相と比較した結果、室町前期(南北朝時代)の作と想定されています。このような姿の石仏には、すでに市の文化財となっている寺田の石造地蔵菩薩坐像や岡山の石仏があります。伊賀地域にはこの磨崖仏を含め、現在5例が確認されています。

これらは寺田型とも言える地域的な特徴を持つ磨崖仏と捉えることができ、この磨崖仏は、寺田型の作例を良好に残す貴重な文化財として、今年の3月24日、市指定有形文化財(彫刻)に指定されました。



頭光
身光
光背

▲磨崖仏



▲磨崖仏の台座部分

請花
敷茄子
反花
框座

文化財課
☎ 47・1285
FAX 47・1290